

創造から新天新地へー24章でたどる神の救済史

22章 「信仰義認ー神の義の啓示」

ローマ人への手紙3章

はじめに

(1) これまでの流れ

- ①創造ー神は良い世界を造られた。
- ②墮落ー罪によって死が世界に入った。
- ③契約の歴史ー神は救済計画を進められた。
- ④メシア到来ー約束の救い主が来られた。
- ⑤御国の提示ーイエスは御国を宣言された。
- ⑥イスラエルの拒絶ー宗教指導者たちはメシアを退けた。
- ⑦新しい契約ー過越の成就である。
- ⑧十字架ー救済計画の中心である。
- ⑨復活ー新創造が開始された。
- ⑩聖霊降臨ー教会の誕生は決定的転換点となった。

(2) ロマ3章の意義

- ①人間論：全人類は罪の下にある（完全な墮落）。
- ②律法論：律法は義認の手段ではなく、罪の認識の手段。
- ③救済論：義認は恵みにより、信仰によって与えられる。
- ④キリスト論：十字架は神の義と愛の交差点。
- ⑤神論：神は義でありつつ、義とする方である。

命題：信仰義認が唯一の救いの道である。

この章を4区分して学ぶと、そのことが分かる。

I. ユダヤ人の特権と神の真実（1～8節）

1. ユダヤ人の優位性とは何か（1～2節）

- (1) いくつもあるが、パウロは一つだけ挙げている。

Rom 3:2 あらゆる点から見て、それは大いにあります。第一に、彼らは神のことばを委ねられました。

- ①神のことば（神の託宣）を委ねられたこと。
- ②これは契約の民としての特権である。

2. 人間の不信仰と神の真実（3～4節）

- (1) しかし、ユダヤ人は神の期待に応えることができなかった。

①人の不信仰は神の真実を無効にするのか。

Rom 3:4 決してそんなことはありません。たとえすべての人が偽り者であるとしても、神は真実な方であるとすべきです。／「それゆえ、あなたが告げるとき、／あなたは正しくあられ、／さばくとき、勝利を得られます」／と書いてあるとおりです。

②詩篇 51 篇の引用 (ダビデの悔い改め)

3. 神の義と人間の罪の誤解 (5~8 節)

(1) 「罪が神の義を際立たせるなら罪を犯してよいのか」という誤謬

①パウロの結論：断じて否 (μὴ γένοιτο)

②神の義は罪を正当化しない

II. 全人類の罪の普遍性 (9~20 節)

1. ユダヤ人も異邦人もすべて罪の下にある (9 節)

Rom 3:9 では、どうなのでしょう。私たちにすぐれているところはあるのでしょうか。全くありません。私たちがすでに指摘したように、ユダヤ人もギリシア人も、すべての人が罪の下にあるからです。

(1) 「すべての人は罪の下にある」

①普遍的墮落

2. 旧約聖書による罪の総括 (10~18 節)

(1) 詩篇・イザヤ書からの連続引用

①義人はいない (10~12 節)

②言葉の罪 (13~14 節)

③行為の罪 (15~17 節)

④神への恐れの欠如 (18 節)

3. 律法の役割 (19~20 節)

Rom 3:19 私たちは知っています。律法が言うことはみな、律法の下にある者たちに対して語られているのです。それは、すべての口がふさがれて、全世界が神のさばきに服するためです。

Rom 3:20 なぜなら、人はだれも、律法を行うことによって神の前に義と認められないからです。律法を通して生じるのは罪の意識です。

①律法は「口を封じる」ためのもの。

②律法によって罪の自覚が生じる。

③律法の行いによって義とされる者はいない。

III. 神の義の啓示 (21~26節)

1. 律法とは別に現された神の義 (21節)

Rom 3:21 しかし今や、律法とは関わりなく、律法と預言者たちの書によって証しされて、神の義が示されました。

(1) 律法と預言者が証ししている義

①旧約との連続性

2. 信仰による義 (22~23節)

Rom 3:22 すなわち、イエス・キリストを信じることによって、信じるすべての人に与えられる神の義です。そこに差別はありません。

Rom 3:23 すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、

①イエス・キリストを信じる信仰による義

②「すべての人は罪を犯している」

③義認の普遍的必要

3. 贖いと恵みによる義認 (24節)

Rom 3:24 神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められるからです。

①「価なしに義と認められる」

②「キリスト・イエスによる贖いを通して」

4. 宥めのささげ物 (ヒラステリオン) (25節)

Rom 3:25 神はこの方を、信仰によって受けるべき、血による宥めのささげ物として公に示されました。ご自分の義を明らかにされるためです。神は忍耐をもって、これまで犯されてきた罪を見逃してこられたのです。

①神はキリストを公に示された。

②血による宥めのささげ物

③神の義の現れ (罪の見逃しとの関係)

5. 神の義と義認の両立 (26節)

①神は義でありつつ、信じる者を義とされる。

②十字架における神の義の完全な解決

IV. 信仰による義認と律法の関係 (27~31節)

1. 誇りの排除 (27~28節)

①行いではなく信仰の原理

②「人は律法の行いとは別に信仰によって義とされる」

2. 神はすべての人の神 (29～30 節)

Rom 3:29 それとも、神はユダヤ人だけの神でしょうか。異邦人の神でもあるのでしょうか。そうです。異邦人の神でもあります。

Rom 3:30 神が唯一なら、そうです。神は、割礼のある者を信仰によって義と認め、割礼のない者も信仰によって義と認めてくださるのです。

①ユダヤ人だけでなく異邦人の神でもある。

②割礼の有無に関係なく信仰によって義認

3. 律法の確立 (31 節)

Rom 3:31 それでは、私たちは信仰によって律法を無効にすることになるのでしょうか。決してそんなことはありません。むしろ、律法を確立することになります。

①信仰は律法を無効にしない。

②むしろ律法を確立する。

結論：今日の信者への適用

1. 自分の義ではなく、キリストの義に立つべきである。

(1) 信仰生活の中心は「受け取ること」。

2. 罪の認識を深めることが福音理解を深める鍵である。

(1) 律法の正しい役割を理解する。

3. 誇りを捨て、恵みに生きるべきである。

(1) すべては神の恵みである、

4. 福音はすべての人に開かれているという確信を持つべきである。

(1) これが伝道の動機である。